

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600406		
法人名	有限会社 政経		
事業所名	グループホーム豊田長藤の家 (1号館)		
所在地	静岡県磐田市上新屋483番地の1		
自己評価作成日	平成29年8月31日	評価結果市町村受理日	平成29年10月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/z/z/index.php?action_kounyo_u_detail_2016_022_kani=true&lievosvoCd=2276600406-

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年9月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様やご家族様の意向に沿うことが出来るように出来る限り工夫し、自己決定を促しながら家庭的な雰囲気の中で心地良く過ごしていただけるよう支援しています。天気の良い日はホーム周辺を散歩や外気浴に出掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

目前にバイパスにつながる道が開けていて交通量は多いものの周囲には田園が拡がり、複合的公共施設や保育園もあります。隣のトラック修理工場からは大きな音や臭いも入るため窓を開けることはなかなかできませんが、職員が2階、3階の窓を意識して開け、風を通してあります。暮らしの継続を目標に生活リハビリに力を入れており、盛り付けや洗い物、拭きあげ等家事の手伝いへと誘ったり、散歩や外気浴は15分前後の短時間での個別対応を実施しています。近くの団地から入居の利用者は今でも当時の友人と頻繁に外食にでていて、理念「地域とともに歩む笑顔あふれるなごみの家」を体現しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼、職員会議などを通じて基本理念の共有化、質の向上を図り実践に向けて努力しています。	散歩ではこちらから先に挨拶することを心掛け、今では農作業に勤しむ人からも声がかかるようになって、前進がみられます。それでも管理者は「職員が本当にわかっているのか」と浸透を意識し「いつも地域とともにあるように」と朝礼などで何度も話すようにしています。	理念をベースとした個人目標を設ける等、実現が客観的にわかるものがあると、なお良いと思います。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩等を通じ近隣住民の方々と挨拶・会話を通しながら、地域の一員として暮らせるよう努めています。	囲碁のボランティア訪問が定期であり、近隣の人々とも顔馴染みとなり、西側にある保育園に通う園児との声かけも日々の中に溶け込んでいます。また生徒の福祉体験も受入れ、歌や遊戯披露のほか肩もみのふれあいもある園児訪問では利用者がとても良い表情になります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センターや介護相談員の来設時には情報交換を行ったり、推進会議等を通じ自治会等への情報発信を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で地域、行政、入居者ご家族様等と幅広く意見交換をする機会を設けています。	行政、地域から(たまに家族も)の出席を得て隔月開催を続ける内、自治会長から「専門家だから…」と紹介があり、現在福祉員も加わっています。「堅苦しい雰囲気では意見もでない」として、フリートークで気軽に意見を募る形を旨としています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や生活保護担当者との連絡を通じながら情報提供しています。介護相談員に毎月来設していただいています。	磐田市の介護施設40箇所ほどが集まる事業所研修会では、種別に分かれて介護相談員との意見交換会もあり、悩みや共通課題を話し合い、また事業所連絡会にも出向き、ヨコの連携に努めています。また介護保険課、生活福祉課ともに月1回以上訪問、相談に応じてもらっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全の為の最低限の施錠以外は身体拘束をしないよう徹底しています。	出入り口は、外部から自由に出はいることができ、中からはロックがかかる方式となっています。「危ないから」といってむやみに声をかけたりせず、本人の状態をみておこなう」「言葉は好ましい言い換えができるようにする」を大切に、スピーチロックを防いでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員に対し研修を実施し、職員間で注意し合える職場風土を作っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様で制度を活用している方がいますので、その肩を通じ学ぶ機会としています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族様に説明し少しでも不安を軽減して頂いて契約から入居に至るよう心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し問題があれば速やかに対応し、ご家族の要望を聞き話し合う環境を整えています。	「職員が本人の不穏を招いている…」との進言から諸事調査して異動に至ったことも過去にはあり、駐車場の出入り口の段差に係る件も打開の道が開けつつあり、難問であっても一つひとつ丁寧に解決させています。また、利用者本人の安寧のためにも定着率向上に留意しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見については常に耳を傾け、良いものについては速やかに実現できるよう努めています。職員会議は個々に発言しやすいよう進行しています。	「ユニット利用者全員を把握する力量をもって欲しい」として担当制は敷かず、レクや防災の係を設け、会議での進行役は輪番と、管理者サイドで育成を考えての運営が見られ、資格取得の相談をはじめ管理者には職員の声が直接届いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々のキャリアパス制度を導入し、資格手当以外の個々のスキルアップに応じた給与体系になっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修等に参加でき、外部研修にも参加を促しています。新入社員の研修も設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月磐田地区の管理者会議、グループ全体の管理会議棟を実施しています。市内の事業者会議にも参加し交流しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼を築くには最初の挨拶、自己紹介から始まります。入居前にご本人にも見学を勧めたり、当方から訪問し要望を伺い説明不足にならないよう心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様やご家族様の要望や意見はしっかり傾聴し、必要に応じ面談を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様やご家族様の話を傾聴し、必要なサービスを導き出すようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族と共に利用者を支え、生活リハビリなどを通して自立支援を意識しながら利用者が生きがいを見出せるように働きかけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	全ての絆を受入れるという考えで、ご家族様や関係者の意見等も傾聴し情報の共有化をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等が来設される場合は本人の現状を考慮し、面会のタイミング等をお伝えしています。	入院の家族が一時帰宅する日程に合わせて自宅に戻る利用者がいたり、また本人の回想を基に市内をドライブ巡りしたこともあります。煙草を嗜む人、珈琲が手放せない人、コーラ好きで毎日飲む人、編み物作品をプレゼントする人、その人それぞれの「継続」があります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールの座席の位置を工夫したり、利用者共通の話題を促したりして、より良い関係をたもてるようにしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望があれば相談に応じ、良好な関係を維持できるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で本人の思いや希望を引き出せる努力をしています。	入浴拒否が激しい利用者も順序や投げかけの言葉を替えて粘り強く待ったところ、入浴できるようになった実績もあり、「目線を合わせる」「相手の立場で考え、意思を尊重する」ことで利用者が心を開いてくれることを職員は経験を通して学んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にアセスメントシートを作成し、本人とのコミュニケーションをとる中で本人の暮らしぶり等の情報を記録して参考にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士が申し送りノートや介護記録を活用することによって情報交換し、偏った見方をせず一人ひとりが有する力を活かせるよう支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が日頃の様子を見て本人や家族と話し合ったうえで、本人にとって心地よい介護計画を作成しています。	「介護計画書の中核を成すのはアセスメントの精度」と考え、普段の暮らしをよく観察し、小さなことも見落とさないようにして取り組んでいます。見直しは3ヶ月毎ですが、カンファレンスも随時おこない、職員間の情報共有を大切としています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が気づいたことを介護記録に記入しています。介護計画に活かし情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況により出来るだけ柔軟に対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みのある環境に利用者を同行(買い物や散歩)することになっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関とは密に連携を取り定期的に受診援助をしています。必要に応じ掛かりつけ医より最適な医療を受けるよう支援しています。	大半が協力医に変更していて、通院介助は職員がおこなっています。在宅の頃からのかかりつけ医を継続する人は家族ということになっていますが、無理となれば職員が代わるため、ほぼ全員の受診に職員が立ち会い、医師と事業所が直接連絡を取りあうこともあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な看護師の訪問により医療連携体制を実施しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	再入居が可能な状況かご家族から状況を確認したり、医療機関を訪問して確認しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向を尊重し、掛かりつけ医療機関との連絡調整を行い、希望に添えられるよう努力しています。	契約時に終末期の説明はしていません。看取りが求められていることは理解していますが、医療連携が整わないとして、水分・食事が減ったり体調変化に応じて家族と相談し、重度化した際には系列の老人保健施設を提案しています。	契約時に終末期の説明がしにくいことと思いますが、急変時の対応とともに事業所運営のリスクマネジメントとして家族への説明があると、なお良いと思います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が受講すべき研修の中に事故発生をテーマにしたものが含まれています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し運営推進会議で自治会等と災害時の避難等について話し合いをしています。	昼夜想定で2回、昼想定では消火や通報訓練、夜想定は担当確認等のメニューをおこないます。車いすを使う利用者を階下へ移動させる訓練とともに、風水害を想定して下から上への移動もおこなっています。また広域避難所の「アミューズ豊田」までの距離を測ったりもしています。	有事には地域の役に立ちたいとし、運推でも「支援は惜しまない」と告知していることですので、次の3点を期待します。 ①地域の防災訓練に出る ②①にあたり、自主防などの連携を進める ③備蓄3日分を徐々に増やす

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室時には声掛け・ノックをし、個人記録は他者の目につかないように保管しています。排泄ケアに関しては尊厳を持って対応するように努めています。	以前は関係の親しさから「～ちゃん」づけもありましたが、現在は家族にも確認し、本人がそう呼んで欲しいか否かを重視して、勝手な個人判断をしないよう徹底させています。トイレがらみの事は「小さな声で」が行き渡っていますが、居室のノックは「全員実行」には課題を残しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る場面を作っています。耳や言葉の不自由な入居者の方に対しても工夫して意思の確認をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定を促し、本人の意向を重視するよう意識しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個別の要望を聞き対応しています。訪問理容が定期的に来設し散髪しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗いや片づけなど職員と一緒にしています。	外食の機会を作れていませんが、誕生日会やリクエストに応じたメニューの日はあります。普段は業者から惣菜が届いていますが、日曜日は食材のみ配達されて職員が手造りしています。今月は敬老会を開催予定で、お饅頭を提供する準備をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	変化のあった際は介護記録・申し送りノートに記録しています。症状が気になる場合は主治医に指示を仰いでいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きのできる方は声掛けして、介助の必要な方はセットしたり、うがいの手助けを行うようにしています。義歯の方は洗浄剤を使用しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易にオムツを使用することは避け、排泄パターンを把握し個別対応を徹底するよう心掛けています。	「誰が便秘○日なのか」は職員共有情報の第一として、現在も利用者の8割がマグシット(便を柔らかくする薬)を使用しなくてはならず、課題としています。入退院ではオムツかぶれや褥瘡に十分気遣っていますが、普段は本人本位の向きもあり、定時誘導はおこなっていません。	便秘については睡眠をはじめ健康の根幹を成すと言われていいますので、惣菜を搬入する業者にも協力を仰ぎ、おやつや飲み物でも補完する等、生活のなかでの改善向上が進むことを期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めにとっていただくよう声掛けし摂取の少ない方や便秘の方はスポーツ飲料等で工夫しています。症状が改善しない方は掛かりつけ医に受診し対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番を変えたり要望に合わせて気持ちよく入浴して頂けるように工夫しています。	浴室までの動線がゆったり確保され、浴槽もとても大きなものです。足し湯ですが、週3回の入浴を目安に相性のよい同士2~3人で入ることもあり、楽しみの一つとなっています。その日の状態でシャワー浴に切り替えることはありますが、基本は湯船に浸かることとしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	声掛けしソファに座っていただいたり、居室への出入りは本人にお任せし温度調整を細目にしていきます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居時に内服薬の内容について職員が把握し、変化が生じた際は記録して情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の要望を重視し個別の支援が出来るよう工夫しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や外気浴は日常的に行っており、閉じこもらないよう積極的に声掛けも行っていきます。外出・外泊は自由にしていただいています。	「少しでも外出の機会を」との想いを以て、本人の気分が良ければ「毎日でも」と散歩にでていきます。ちょっとした外出のほか、ゆやの長藤や桜等、花見は恒例行事として定着していますが、他の季節では外出は家族任せとなっています。	「季節の外出にはできるだけ行きたいと思っている」とのことでしたので、確実に実行できるよう年間計画に位置付けることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事務所で一括管理していますが、ご自分で持っている方もおり買い物の援助もしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所有している方もおり、ご家族の協力をいただき電話の取次ぎは自由に行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	派手にならないよう家庭にいるような落ち着いた雰囲気の中で過ごしていただけるよう工夫しています。	利用者の中に異食の症状をもつ人がいたため、リビングをはじめ至る処での小物や装飾品が撤去され、殺風景な雰囲気は否めず残念です。利用者はソファをはじめ好みの場所で自由に過ごしており、懐メロをかけて口ずさんでいる利用者もいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地の良さを重視し、必要に応じテーブルの席を変えたりソファの向きを工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れて馴染みのあるものを持参いただくようにしています。居室内の配置はご本人とご家族に決めていただいています。	居室はきれいに清掃が行き届いています。獣医だったという利用者は獣医学会の雑誌が並び、趣味なのかファミコンゲームも置かれています。炭酸好きな人は小ぶりの冷蔵庫を置き、いつも飲んでいたそうですが、管理も難しくなり今では職員が管理して随時炭酸を届けています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりが食堂、廊下、居室、トイレ、浴室に設置してあり安全に自由に移動できるよう環境を整えています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600406		
法人名	有限会社 政経		
事業所名	グループホーム豊田長藤の家 (2号館)		
所在地	静岡県磐田市上新屋483番地の1		
自己評価作成日	平成29年8月31日	評価結果市町村受理日	平成29年10月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhiw.go.jp/22/index.php?act=ion_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JiyosyoCd=2276600406-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年9月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様やご家族様の意向に沿うことが出来るように出来る限り工夫し、自己決定を促しながら家庭的な雰囲気の中で心地良く過ごしていただけるよう支援しています。天気の良い日はホーム周辺を散歩や外気浴に出掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

目前にバイパスにつながる道が開けていて交通量は多いものの周囲には田園が拡がり、複合的公共施設や保育園もあります。隣のトラック修理工場からは大きな音や臭いも入るため窓を開けることはなかなかできませんが、職員が2階、3階の窓を意識して開け、風を通してあります。暮らしの継続を目標に生活リハビリに力を入れており、盛り付けや洗い物、拭きあげ等家事の手伝いへと誘ったり、散歩や外気浴は15分前後の短時間での個別対応を実施しています。近くの団地から入居の利用者は今でも当時の友人と頻りに外食にでていて、理念「地域とともに歩む笑顔あふれるなごみの家」を体現しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼、職員会議などを通じて基本理念の共有化、質の向上を図り実践に向けて努力しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩等を通じ近隣住民の方々と挨拶・会話を通しながら、地域の一員として暮らせるよう努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センターや介護相談員の来設時には情報交換を行ったり、推進会議等を通じ自治会等への情報発信を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で地域、行政、入居者ご家族様等と幅広く意見交換をする機会を設けています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や生活保護担当者との連絡を通じながら情報提供しています。介護相談員に毎月来設していただいています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全の為の最低限の施錠以外は身体拘束をしないよう徹底しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員に対し研修を実施し、職員間で注意し合える職場風土を作っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様で制度を活用している方がいますので、その肩を通じ学ぶ機会としています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族様に説明し少しでも不安を軽減して頂いて契約から入居に至るよう心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し問題があれば速やかに対応し、ご家族の要望を聞き話し合う環境を整えています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見については常に耳を傾け、良いものについては速やかに実現できるよう努めています。職員会議は個々に発言しやすいよう進行しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々のキャリアパス制度を導入し、資格手当以外の個々のスキルアップに応じた給与体系になっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修等に参加でき、外部研修にも参加を促しています。新入社員の研修も設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月磐田地区の管理者会議、グループ全体の管理会議棟を実施しています。市内の事業者会議にも参加し交流しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼を築くには最初の挨拶、自己紹介から始まります。入居前にご本人にも見学を勧めたり、当方から訪問し要望を伺い説明不足にならないよう心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様やご家族様の要望や意見はしっかり傾聴し、必要に応じ面談を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様やご家族様の話を傾聴し、必要なサービスを導き出すようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族と共に利用者を支え、生活リハビリなどを通して自立支援を意識しながら利用者が生きがいを見出せるように働きかけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	全ての絆を受入れるという考えで、ご家族様や関係者の意見等も傾聴し情報の共有化をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等が来設される場合は本人の現状を考慮し、面会のタイミング等をお伝えしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールの座席の位置を工夫したり、利用者共通の話題を促したりして、より良い関係をたもてるようにしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望があれば相談に応じ、良好な関係を維持できるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で本人の思いや希望を引き出せる努力をしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にアセスメントシートを作成し、本人とのコミュニケーションをとる中で本人の暮らしぶり等の情報を記録して参考にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士が申し送りノートや介護記録を活用することによって情報交換し、偏った見方をせず一人ひとりが有する力を活かせるよう支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が日頃の様子を見て本人や家族と話し合ったうえで、本人にとって心地よい介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が気づいたことを介護記録に記入しています。介護計画に活かし情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況により出来るだけ柔軟に対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みのある環境に利用者を同行(買い物や散歩)することになっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関とは密に連携を取り定期的に受診援助をしています。必要に応じ掛かりつけ医より最適な医療を受けるよう支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な看護師の訪問により医療連携体制を実施しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	再入居が可能な状況かご家族から状況を確認したり、医療機関を訪問して確認しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向を尊重し、掛かりつけ医療機関との連絡調整を行い、希望に添えられるよう努力しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が受講すべき研修の中に事故発生をテーマにしたものが含まれています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し運営推進会議で自治会等と災害時の避難等について話し合いをしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室時には声掛け・ノックをし、個人記録は他者の目につかないように保管しています。排泄ケアに関しては尊厳を持って対応するよう努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る場面を作っています。耳や言葉の不自由な入居者の方に対しても工夫して意思の確認をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定を促し、本人の意向を重視するよう意識しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個別の要望を聞き対応しています。訪問理容が定期的に来設し散髪しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗いや片づけなど職員と一緒にしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	変化のあった際は介護記録・申し送りノートに記録しています。症状が気になる場合は主治医に指示を仰いでいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きのできる方は声掛けして、介助の必要な方はセットしたり、うがいの手助けを行うようにしています。義歯の方は洗浄剤を使用しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易にオムツを使用することは避け、排泄パターンを把握し個別対応を徹底するよう心掛けています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めにとっていただくよう声掛けし摂取の少ない方や便秘の方はスポーツ飲料等で工夫しています。症状が改善しない方は掛かりつけ医に受診し対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番を変えたり要望に合わせて気持ちよく入浴して頂けるように工夫しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	声掛けしソファに座っていただいたり、居室への出入りは本人にお任せし温度調整を細目に行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居時に内服薬の内容について職員が把握し、変化が生じた際は記録して情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の要望を重視し個別の支援が出来るよう工夫しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴は日常的に行っており、閉じこもらないよう積極的に声掛けも行っていきます。外出・外泊は自由に行っていただいています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事務所で一括管理していますが、ご自分で持っている方もおり買い物の援助もしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所有している方もおり、ご家族の協力をいただき電話の取次ぎは自由に行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	派手にならないよう家庭にいるような落ち着いた雰囲気の中で過ごしていただけるよう工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地の良さを重視し、必要に応じテーブルの席を変えたりソファの向きを工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れて馴染みのあるものを持参いただくようにしています。居室内の配置はご本人とご家族に決めていただいています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりが食堂、廊下、居室、トイレ、浴室に設置してあり安全に自由に移動できるよう環境を整えています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600406		
法人名	有限会社 政経		
事業所名	グループホーム豊田長藤の家 (3号館)		
所在地	静岡県磐田市新屋483番地の1		
自己評価作成日	平成29年8月31日	評価結果市町村受理日	平成29年10月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhiw.go.jp/22/index.php?act=ion_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JiyosyoCd=2276600406-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年9月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様やご家族様の意向に沿うことが出来るように出来る限り工夫し、自己決定を促しながら家庭的な雰囲気の中で心地良く過ごしていただけるよう支援しています。天気の良い日はホーム周辺を散歩や外気浴に出掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

目前にバイパスにつながる道が開けていて交通量は多いものの周囲には田園が拡がり、複合的公共施設や保育園もあります。隣のトラック修理工場からは大きな音や臭いも入るため窓を開けることはなかなかできませんが、職員が2階、3階の窓を意識して開け、風を通してあります。暮らしの継続を目標に生活リハビリに力を入れており、盛り付けや洗い物、拭きあげ等家事の手伝いへと誘ったり、散歩や外気浴は15分前後の短時間での個別対応を実施しています。近くの団地から入居の利用者は今でも当時の友人と頻りに外食にでていて、理念「地域とともに歩む笑顔あふれるなごみの家」を体現しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼、職員会議などを通じて基本理念の共有化、質の向上を図り実践に向けて努力しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩等を通じ近隣住民の方々と挨拶・会話を通しながら、地域の一員として暮らせるよう努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センターや介護相談員の来設時には情報交換を行ったり、推進会議等を通じ自治会等への情報発信を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で地域、行政、入居者ご家族様等と幅広く意見交換をする機会を設けています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や生活保護担当者との連絡を通じながら情報提供しています。介護相談員に毎月来設していただいています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全の為の最低限の施錠以外は身体拘束をしないよう徹底しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員に対し研修を実施し、職員間で注意し合える職場風土を作っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様で制度を活用している方がいますので、その肩を通じ学ぶ機会としています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族様に説明し少しでも不安を軽減して頂いて契約から入居に至るよう心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し問題があれば速やかに対応し、ご家族の要望を聞き話し合う環境を整えています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見については常に耳を傾け、良いものについては速やかに実現できるよう努めています。職員会議は個々に発言しやすいよう進行しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々のキャリアパス制度を導入し、資格手当以外の個々のスキルアップに応じた給与体系になっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修等に参加でき、外部研修にも参加を促しています。新入社員の研修も設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月磐田地区の管理者会議、グループ全体の管理会議棟を実施しています。市内の事業者会議にも参加し交流しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼を築くには最初の挨拶、自己紹介から始まります。入居前にご本人にも見学を勧めたり、当方から訪問し要望を伺い説明不足にならないよう心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様やご家族様の要望や意見はしっかり傾聴し、必要に応じ面談を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様やご家族様の話を傾聴し、必要なサービスを導き出すようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族と共に利用者を支え、生活リハビリなどを通して自立支援を意識しながら利用者が生きがいを見出せるように働きかけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	全ての絆を受入れるという考えで、ご家族様や関係者の意見等も傾聴し情報の共有化をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等が来設される場合は本人の現状を考慮し、面会のタイミング等をお伝えしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールの座席の位置を工夫したり、利用者共通の話題を促したりして、より良い関係をたもてるようにしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望があれば相談に応じ、良好な関係を維持できるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で本人の思いや希望を引き出せる努力をしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にアセスメントシートを作成し、本人とのコミュニケーションをとる中で本人の暮らしぶり等の情報を記録して参考にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士が申し送りノートや介護記録を活用することによって情報交換し、偏った見方をせず一人ひとりが有する力を活かせるよう支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が日頃の様子を見て本人や家族と話し合ったうえで、本人にとって心地よい介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が気づいたことを介護記録に記入しています。介護計画に活かし情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況により出来るだけ柔軟に対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みのある環境に利用者を同行(買い物や散歩)することになっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関とは密に連携を取り定期的に受診援助をしています。必要に応じ掛かりつけ医より最適な医療を受けるよう支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な看護師の訪問により医療連携体制を実施しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	再入居が可能な状況かご家族から状況を確認したり、医療機関を訪問して確認しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向を尊重し、掛かりつけ医療機関との連絡調整を行い、希望に添えられるよう努力しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が受講すべき研修の中に事故発生をテーマにしたものが含まれています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し運営推進会議で自治会等と災害時の避難等について話し合いをしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室時には声掛け・ノックをし、個人記録は他者の目につかないように保管しています。排泄ケアに関しては尊厳を持って対応するよう努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る場面を作っています。耳や言葉の不自由な入居者の方に対しても工夫して意思の確認をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定を促し、本人の意向を重視するよう意識しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個別の要望を聞き対応しています。訪問理容が定期的に来設し散髪しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗いや片づけなど職員と一緒にしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	変化のあった際は介護記録・申し送りノートに記録しています。症状が気になる場合は主治医に指示を仰いでいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きのできる方は声掛けして、介助の必要な方はセットしたり、うがいの手助けを行うようにしています。義歯の方は洗浄剤を使用しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易にオムツを使用することは避け、排泄パターンを把握し個別対応を徹底するよう心掛けています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めにとっていただくよう声掛けし摂取の少ない方や便秘の方はスポーツ飲料等で工夫しています。症状が改善しない方は掛かりつけ医に受診し対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番を変えたり要望に合わせて気持ちよく入浴して頂けるように工夫しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	声掛けしソファに座っていただいたり、居室への出入りは本人にお任せし温度調整を細目に行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居時に内服薬の内容について職員が把握し、変化が生じた際は記録して情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の要望を重視し個別の支援が出来るよう工夫しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴は日常的に行っており、閉じこもらないよう積極的に声掛けも行っていきます。外出・外泊は自由に行っていただいています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事務所で一括管理していますが、ご自分で持っている方もおり買い物の援助もしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所有している方もおり、ご家族の協力をいただき電話の取次ぎは自由に行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	派手にならないよう家庭にいるような落ち着いた雰囲気の中で過ごしていただけるよう工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地の良さを重視し、必要に応じテーブルの席を変えたりソファの向きを工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れて馴染みのあるものを持参いただくようにしています。居室内の配置はご本人とご家族に決めていただいています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりが食堂、廊下、居室、トイレ、浴室に設置してあり安全に自由に移動できるよう環境を整えています。		